

行政 トピックス



学生の発想をまちづくり
集落の新たな魅力の発掘へ

—「元気ねつと！五ヶ荘」協定
調印式—

日吉町四ツ谷・佐々江集落で組織する「元気ねつと！五ヶ荘」（岩本照代表）と、立命館大学国際関係学部の河村律子准教授が、「ふるさと共援活動組織協定」を7月1日に締結。同集落は234



▲協定書に署名される河村准教授（左）と岩本代表



▲学生や住民ら調印式出席者で記念撮影

世帯521人（7月1日現在）。過疎・高齢化により農村環境や地域資源の保全、伝統行事の継承などが住民に大きな負担となっていました。この地域づくりへのアドバイスを受けながら、共に活性化を図る研究が進められます。

調印式では、岩本代表による地域再生への期待に満ちた決意表明を受け、河村准教授が「学生の若い発想と力を生かして新たな価値を見いだし、お互いに意義あるものにしていきたい」とあいさつ。その後、学生らと共に「玉岩地藏堂」など集落を視察しました。

また、8月1日には顔合わせとして、地元の方と学生が郷土料理を囲んで交流しました。

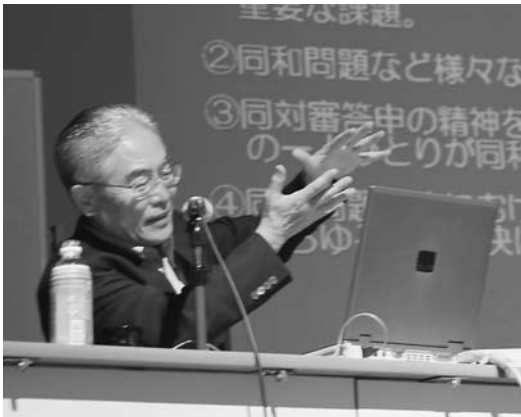
人としての尊厳を考えよう

—南丹市人権教育講座—

人権意識を豊かにし、家庭・地域などで一人一人が正しく理解して行動がとれるよう、今年度3回の人権教育講座を開催しています。

第1回は7月22日に、依然として重要な課題である「部落差別」について友永健三氏（社団法人部落解放・人権研究所理事）を講師に園部公民館で開講。「国際的な責務として、差別の現状を明らかにし、解決に向けた教育や人権侵害の救済、人権尊重のまちづくりなどが必要」と説かれました。

第2回は9月17日に、第3回は10月16日に開講予定です。



▲潜在する同和問題の現状を指摘される友永氏



▲職員に見送られて退任する仲村副市長（中央）

「踏ん張りの先に心の成長」職員に向け職務最後の訓示

—仲村副市長退任式—

仲村脩副市長が6月30日付で退任しました。仲村副市長は、平成18年7月から助役（19年4月、法改正で副市長に改称）として3年間にわたり南丹市のまちづくりに尽力。

退任式では、市職員を前に「任期途中の辞任で迷惑を掛けるが、今が適切な時期であると自分自身で判断した。厳しいことも言ってきたが、踏ん張りの先に必ず心の成長がある。力を合わせて頑張っ

てほしい」とあいさつしました。副市長は当面、岸上吉治副市長の1人体制となります。